

分科会 3

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」とアウトリーチ ～そのあり方を探る～

コーディネーター： 梁田英麿(東北福祉大学せんだんホスピタル)
出演(話題提供)者： 金井浩一(一般社団法人ライフラボ 相談支援事業所しほふぁーれ 代表)
増子徳幸(一般社団法人てとて 代表理事)
櫻田なつみ(株式会社 MARS ピアサポーター、「にも包括」の構築に係る検討会 構成員)

国の目指す「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」とは、そもそも一体どういったシステムなのでしょう？この分科会では、「にも」と表現されている「地域共生社会」の本質について掘り下げながら、メンタルヘルス支援ニーズのある人や社会的孤立状態にある人、そしてその人に関わる人たちが求めるアウトリーチについて、参加者の皆さんと一緒にいろいろな角度から検討を重ねられたらと思います、開催いたしました。

【報告・発表内容】

- ① コーディネーター(梁田)より、「世の中の正しさ」に傷ついてしまっている人が少なからずいらっしゃる事実や、「にも包括システム」も精神障害のある人たちへ「世の中の正しい」ことを押し付けるようなものになってはいけないだろうことなどを紹介しながら、分科会の趣旨説明
- ② 金井浩一氏より、京都市で相談支援事業を柱としてアウトリーチを展開している立場から、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の概要や課題などについて
- ③ 増子徳幸氏より、横浜市で訪問看護を中心に地域の関係機関と連携しながらアウトリーチを展開している立場から、「にも包括システム」の中で地域に役立つアウトリーチについて
- ④ 櫻田なつみ氏より、当事者にして「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」構成員でもある立場から、「にも包括システム」に対する当事者としての想いについて

【意見交換を行ってみたいの感想】

アウトリーチのことに限らせていただいて質問を受け付けましたが、参加者の皆さんからは、時間が足りないほど沢山のご質問を頂戴しました。皆さんには、ご参加くださり、ご質問をしてくださり、ありがとうございました！

意見交換を行ってみたいの感想ですが、正直なところ、国の目指している「にも包括システム」そのもののご存知でない方がまだまだ沢山いらっしゃるんだということがよくわかりました。そのような中、最後に「関係性を築いていく中で線引きをどうするのか？」というご質問をいただき、出演者のほうからは「そもそもはじめから線引きはしない」という返答をいたしました。多くの方々からご賛同をいただけたようで良かったと思っています次第です。

ある意味、社会の中にあるいろいろな「線」を無くしていくことが、「社会的包摂(地域共生社会)」を実現していく上ではとても重要なことのように思いました。

《梁田英麿(コーディネーター)》